



# ここがポイント！

この活動の環境教育的効果はここにある！

Point 5 空想力

## →環境問題に気づく力

空間軸と時間軸を拡大することは、環境問題を考える上で重要です。そのために逞しい空想力は欠かせません。

Point 1

ごてんにすむのはだれ？

## →空想力を育くむ

森林とのつながりの入り口は空想力です。絵本をきっかけにして、子ども達の空想力は森の入り口を開きます。

Point 3

これはキツツキの

## →論理的な思考を身につける

子ども達は与えられた材料から、科学的な答えを導き出そうと始めます。空想が科学的・論理的な思考を生み出します。

Point 2

へびさんいるかなあ？

## →好きになり大切にする

絵本を通して子ども達の興味は生き物に向きます。子ども達は自然が大好きです。良いイメージを持ってもらうことで、森林の中で広がる世界も違います。

Point 6

絵本の世界に通じている

## →社会をシミュレーションする

幼児特有のごっこ遊びは、社会生活の高度なシミュレーションです。それを支えているのが絵本というファンタジーの世界なのです。

Point 4

現実の世界と結びつけて

## →感覚と感性

空想と現実を行き来することはとても大切です。それは思考のリズムを作り、また、空想世界と現実の境を明確にしていきます。

### 森林について

好きになり大切にする

知識と観察力をつける

自分とのつながりに気づく

### 心身の発育について

感覚と感性を育む

身体能力を育む

好奇心を育む

### 心のエコロジー

コミュニケーション能力を育くむ

多様な価値観を育む

主体性や自尊心を育む

その他 空想力を育む 論理的な思考を身につける 環境問題に気づく力 社会をシミュレーションする

この活動の環境教育的な要素



この船のおかげでアイヌの人たちはずいぶん助かった。こんど森に行った時、神さまにお礼のことを言ってみよう。お返しという言葉が森から聞こえてくるかもしれないぞ。

キツツキさんの穴にもいろいろあるのじゃが、こんな大きな穴もある。これを掘ったのはカラスほどもある大きなキツツキなのじゃ。穴がみんなくっついてしまったところを切り取って、水に浮かべるとどうじゃな、そうじゃ丸木舟じゃ。昔から北海道に住んでいたアイヌの人たちは、これをみて丸木舟を作り始めたというのじゃ。木に穴をほったキツツキさんを、丸木舟をつくることを教えてくれた神さまとして、大切にしているのじゃ。

キツツキが丸木舟を掘る？

幹爺さんの森のはやし



その①

森林のものから  
自分の思うままの  
形を作る。

# 造形遊び

～創造する力～



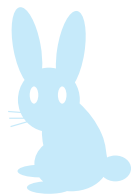
子ども達は心のままにものを作ることができます。それは、森林の中においても部屋の中でも変わらない、子ども達の想像力が形になる、魅力的な遊びです。ペットボトルを切って紐をつけたお手製のポシエットを下げて森林に行くと、木の実や葉っぱなど、**Point 2** いろいろな材料がいっぱいに詰め込まれます。その場で松ぼっくりに葉っぱを差し込んで「ウサギだよ」と言っている子もいますし、葉っぱを帽子に差し込んで自分がウサギになっってしまう子もいます。**Point 3** ペットボトルポシエットに詰め込んで持って帰ってきた色んな材料は、同じ物を箱に分けて分類しておくとも良いです。

この木の奥、  
何かに似てるかも。  
この枝使って  
何か作れそうだよ。

## この活動の流れ

活動	声のかけかた
導入： 出かける前のお話	「ふゆめがっしょうだん」や木の奥の絵本など、自然と造形の絵本があふれます。大人が作った素敵な工作を見せるのもやる気を喚起できるかも。
出発	子ども達が興味を持ったものは基本的に認めて採取しますが、腐る物はその場で工作しましょう。
：本体1： 色んな木の奥や木の枝を拾います。写真①	室内の工作では、見本はあっても、自分の作りたい物を作らせてあげるとよいでしょう。
：本体2： 拾いながら、見つけた物で形を作ってみましょう。持って帰っての作業も良いでしょう。写真②	
：まとめ： 品評会	写真③ みんなで作った物を並べて鑑賞しましょう。
：発展： 造形に興味を持つ子がいたら、次は絵を描いてみたり、粘土で物を作ってみたり、色んな広がり体験させてみましょう。	

しよう。これらの材料は室内でも素敵な工作に変身します。適度な大きさに切った段ボールに麻布を切って貼り付けた台紙に、松ぼっくりやどんぐりや、オオウバユリの種、木の枝**Point 4**を使って自由に貼り付けていきます。子ども達の想像力がとても素敵で、**Point 5**世界でただひとつの作品が次々に生まれていきます。**Point 6**拾ってきた面白い形の石は、そのまま絵の具を塗ってお人形に。石の形を魚や動物に見立てて色を塗るので、子ども達の想像力はますます増していくようです。森林にある様々なものが子ども達の心を育てるのだなということが、改めて分かります。



# ここがポイント！

この活動の教育的効果はここにある！

Point 5

世界でたったひとつ

## → 主体性と自尊心

森の材料で作られるクラフトはどんなに真似しても世界でたった一つの自分だけの物。それをほめてあげることは、自尊心を育てる貴重なきっかけです。

Point 1

想像力が形になる

## → 実現する力

自分で想像したことを現実にするには、簡単なことではありません。考えたことを形にする作業は、希望を現実化する良い練習になります。

分類

Point 3

## → 知識と観察力をつける

材料を整理整頓して使いやすくするだけではなく、分類という科学的手法を知らないうちに実践できます。

Point 2 いろんな材料

## → 自分とのつながりに気づく

森林の中で見つける物を様々な形にすることは、森林が資源であることを認識できる良い機会です。これを機に様々な森林資源に目を向けることができます。

Point 6

魚や動物に見立てて

## → 空想力を育てる

ただの石ころですが、そこから様々な世界を膨らませることが出来ます。自由な発想を育てます。

Point 4

松ぼっくりやどんぐり

## → 自然の多様性への気づき

子どもが何かを作れそうだと思う物はたくさんあります。それらは全て森林から生まれたもので、並べるだけでも、森林の多様性を知ることが出来ます。

### 森林について

好きになり大切に

知識と観察力をつける

自分とのつながりに気づく

### 心身の発育について

感覚と感性を育む

身体能力を育む

好奇心を育む

### 心のエコロジー

コミュニケーション能力を育む

多様な価値観を育む

主体性や自尊心を育む

その他 実現する力 空想力を育てる 自然の多様性への気づき

この活動の環境教育的な要素



キツキさんのエサは木の中にある虫さんの子もじゃ。いろいろな虫さんがいるが、ある虫さんは、やわらかくなった木に親がたまごを産む。子どもはやわらかいところを食べていく。ごほんの中にトンネルをほってくらしているようなものなんじゃ。キツキさんはそのイモムシさんが大好きじゃ。

木に入り込んだキノコが木の中で増えいくと、かたい木がウエハースのようになってしまうのじゃ。キノコが木のおいしいところを食べてしまうのだ。ワシらだっておいしくはないが、ポリポリ食べることもできるくらいじゃ。やわらかくなった木は、簡単に穴をほることができる。キツキさんの巣穴はこういう木を選んで掘るので、穴をどんと掘ることができるのじゃ。

木がやわらかい？

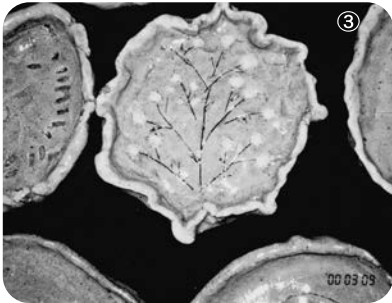


その⑧

土遊びは  
すまいと生活の基準を  
子ども達に  
学ばせてくれます。

# 土で遊ぶ

～生活と文化～



## この活動の流れ

活動	声のかけかた
子ども達も始めます。大人は邪魔しなくてもいいです。写真①②	泥遊びをさせてあげたい声かけは必要ないかもしれません。泥で遊び始めた子どもを、汚れるからと止めてしまうことを我慢しましょう。
子ども達の遊びを形にしてあげると遊びが生活と密着します。写真③	男の子が作る土の街や、女の子のおままごと、集中力の要る泥団子、大人は倒れて子どもにうねずいてやるだけでもいいでしょう。もちろんだれでも一緒に泥だらけになって遊んであげて下さい。絶対大人も楽しいはずですよ。

発展：  
道具にまで昇華した土の姿を見せたり、道具を作らせてあげてそれを使うと、土と自分が密着します。焼き物はその美味が薦めの活動です。

みんなが使っているお皿、道路のコンクリート、実はみんな砂や土なんだ。

乳児を外に連れ出すと、まず土を握り、口へ持っていきます。外界の物は全て知らないのですから当然です。でも、慌てることはありません。3度口にしたなら、それがおいしい物ではないことを知るからです。かえって、その好奇心の旺盛さを喜ぶべきでしょう。でも遊び方はどんどん変わっていきます。Point 1 ひとくちに土といっても場所によってかなりの違いがあります。森林の中の腐葉土の多いふわふわとした土。多くの人に踏まれた固い土など、色々な土を足の裏、手のひらで感じ、その性質を学習していくのです。母なる大地の土を手でなで、手で丸め、水を加え、どろどろの泥遊びは

是非幼児期に体験してほしい遊びです。これができる時期は長くないからです。幼稚園の園庭では、常に誰かが泥遊びをしています。狭い園庭のどこの部分に粘る土があり、それにどこの乾いた土を掛けていくと光る泥団子ができるか、子ども同士の情報交換がなされています。1時間もかけなければできない「光る泥団子」に夢中になって遊べるPoint 4 のはこの幼児期の特徴です。丸い泥団子に握り拳を入れて乾かせば、素焼きのような器ができあがります。Point 5 昔の人は泥に麦わらを加えて土壁を作ったのです。いわゆる住まいの原形がここにあります。人間の生活の基は自然の中にあるPoint 6 ことを言葉で教えるよりも体験していれば、後に機会がやってきた時に、しっかり理解できることでしょう。土・泥で遊ぶ体験を幼児期にはたっぷりさせてあげたいものです。



# ここがポイント！

この活動の環境教育的効果はここにある！

### Point 5

素焼きのような器

→ **自然資源とのつながりを知る**

土遊びの時、昔の住居は土壁だったことなどを話すと、土が自然資源であることや生活の関わりに興味に向きます。

### Point 1

好奇心の旺盛さ

→ **好奇心を育む**

乳児や幼児に最も大切なこと。知らないことを体験して一つ一つ覚えることが学習への最も早道です。そのための好奇心を育てる心は大人の方が忘れがちです。

### Point 3

足の裏、手のひらで

→ **感覚と感性**

多様な土が与えてくれるのは多様な感触です。特に触覚を中心にして五感を刺激し、癒しを与えてくれます。

### Point 2

どんどん変わってゆきます

→ **多様な価値観**

興味の対象は次々に変化してゆきます。土はその変化を余すところ無く受け止めるだけの変化を持つ、良きおもちゃでもあります。

### Point 6

人間の生活の基は自然の中にある

→ **自分とのつながりに気づく**

土で遊んでいるうちに、それはおままごとであったり土の造形を借りて生活の遊びが出てくるようになります。土と生活のつながりへの気づきです。

Point 4 1時間もかけなければ

→ **集中力と探求心**

1時間もの間、子ども達を集中させる力が土にはあります。土が様々な形に姿を変えることで、子ども達の集中力と探求心を育てます。

### 森林について

好きになり大切にする

知識と観察力をつける

自分とのつながりに気づく

### 心身の発育について

感覚と感性を育む

身体能力を育む

好奇心を育む

### 心のエコロジー

コミュニケーション能力を育む

多様な価値観を育む

主体性や自尊心を育む

その他 集中力と探求心 自然資源とのつながりを知る

この活動の環境教育的な要素



キツツキさんの舌じゃカギになっとるじゃろ。

キツツキさんは木をつついて、木の中にくらす虫さんのトンネルを見つける。さて細長いトンネルの中にくらす虫さんの子どもをどうやって食べるのかな。いちいち虫を口に入れるまで、木をつついてこわしてはは大変だ。どうやって口までもってくるのかね。キツツキさんの舌はヒモみたいになっていて長いのじゃ。舌をトンネルの中の虫さんのところまで入れるのじゃ。そしてキツツキさんの舌の先はカギになっておつて虫さんのことイモムシさんを釣り上げるというわけじゃ。トンネルだけじゃなくて、木の皮のすきまにも小さな虫やクモがいる。それもその長い舌でひっかける。舌はネバネバしているから、小さなものはそれでネッパッテ、舌にくっつけるということができる。すこいじゃろうか。

